

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○	・地域にさらにアピールするための理念を作る。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	・今年は町内会の夏祭りに参加しました。運営推進会議で町内の方を慰問に来て頂くことと、町内会の文化祭に参加する事に取り組もうと思います。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	・建物が1軒家ではなく、近隣の方とのふれあいが難しいが、出来るだけ、外部に出かけるように取り組みたい。 ・避難訓練等を近隣の方の参加をお願いしたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	西田町は高齢者が多い。近隣も高齢者宅が多くみられる、水害等災害時の協力ができるよう考えている。	○	・運営推進会議を利用して取り組む
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・職員全員で自己評価を行い、外部評価の結果も開示して反省会をしている。 ・第三者の目での気づきを教えていただいていると実感している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議で話し合い、町内会の夏祭りへの参加がスムーズに行えた。鹿児島市役所の実地指導の指摘事項も一緒に話し合えた。外部評価の改善点も指導をもらいたいと考えている。	○	・地域との掛け橋になってもらいたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・鹿児島市の訪問調査員の受け入れをしている。(年2回) ・入居様からのご希望等を新たに知る機会になり、サービス向上に役立っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・研修会やテレビ等で理解している。	○	・職員全員の勉強会に取り組んでいきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・集団指導や事業所内の勉強会を行っている。施設内では防止できている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入居前、入居時は分かりやすく説明している。いつでも訊ねていただき、ご理解できるような体制、雰囲気を作っている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・ご意見箱やパンフレット等の掲示がしてある。入居様のご利用はご無理なため日常会話のなかで聞き取りを行い、ご満足いただけるよう取り組んでいる。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・ご面会時や、ホーム便りを毎月請求書と一緒に送っている。 ・金銭に関しては年に3回ほど金銭出納帳のコピーを送っている。直ちに開示できるように管理している。 ・転倒されたり、体調不良時は特に密に報告している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・ご意見箱を設置している。ご意見をいただいたときはさらに詳しい情報収集し、改善の取り組みを検討し、対処するようにしている。 ・家族会のをを行い、ホームの取り組みや家族の意見の場に行っている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・職員会議を毎月行い、勉強会や業務の検討をしたり、入居様の処遇の意見交換の場を作っている。業務に反映するよう努めている ・職員会議終了後交流会を行い、職員間の親睦を図っている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	・行事特に外出時は全員出勤している。職員の体調不良等、途中交代や見直しを行っている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・職員の異動や退職の場合は、新規職員がスムーズに入れるように研修期間を設けている。職員の異動ができるだけないよう努力している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・法人内では新人研修が行われ、職員の心構えや法人の方針、他事業の紹介がある。他には法人外の研修や法人内の研修や勉強会、各委員会に所属しての勉強会や活動を行っている。 ・法人内に図書館があり各種専門書をいつでも閲覧できるようにしている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・他事業所の開設時の職員研修の受け入れあり。 ・管理者間での交流はあり、意見交換や勉強会の情報ももらっている。	○ ・グループホーム間の交流を始めている地区もある
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	・職員会議後の交流会で話ができるようにしている。 ・職員が働きやすいよう会議で業務検討を毎回行っている。	○ ・個々人の資質にあった配慮を行う。 ・時間外勤務を減らす
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	・職員の得意分野を生かせるよう業務の担当振り分けをしている。	○ ・アイデアを出し合い、職員全員で楽しく働きがいのある職場を実現したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・関係機関や身近な方より情報を取ってから本人に対面するようにする。ゆっくり時間を作り、お話ができる雰囲気を作る。傾聴に努める。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・ご家族のご都合に合わせて、いつでも気持を聞かせて頂いている。気持ちに添うよう努めている。 ・重要事項説明書等も利用し、不安をできるだけなくせるよう努めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・主治医をはじめ各関係機関との情報交換を密にし、過ごしやすい生活スタイルを提供、支援できるように努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・最初が大事だと思っている。事前に訪問を行い聞き取りや説明を行います。事前の来所をお願いし、入居様とも話せる雰囲気を作り不安を感じないように取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・お茶の時間をゆっくりと取っている。職員も入居者様と一緒に座り話をする機会を作り、昔ながらのならわしや方言、食べ物話題で盛り上がる。定期的(週2回)に買い物ドライブに出かけており、車中でもゆっくり話す機会があり、いろいろ教えてもらってる。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・面会に見えた時近況をお話しをしたり、母の日・敬老の日を利用した家族会を催し、来所の機会を作っている。	○	・ご面会の少ないご家族には、電話等で話せる機会を作る。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・私たちのホームがご家族の実家のような関係になり、いつでも気軽に遊びに来れるような存在になれるように努めています。	○	・お互いが満足し、悔いのないよう過ごして頂けるようにさらに検討、努力していく。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・友人知人の方にもご来訪をお願いしている。 ・近隣を散歩していると声をかけてくださり立ち話を楽しまれている。施設にも遊びに来てくださいとお話している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・席の位置、レクリエーション時の組み合わせ等考慮し、より楽しんで頂ける様に努め、又、トラブル防止や解決にも迅速な対応を心掛けている。	○	・入居様全員が気持ちよく過ごせるようにトラブルを防ぐように努める。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・入院中の面会。他サービスに変わった時も担当者から情報をもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・本人より直接・間接的に聞きご希望に添えるように努めている。 ・寄り添い、同じ時間を共有し、表情等から意向を推測し、ご満足していただけるように職員間で話し合っている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居前・入居時にご家族、各関係機関から情報収集している。 ・入居されてからは、慣れるまでは常に職員が寄り添い、会話の中から情報収集している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・日中・夜間と心身状態や言葉、行動等を個人の記録に残し、連絡帳を使いスタッフ全員が情報を共有できるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・サービス担当者会議を開催して、作成している。 ・ご家族とは電話や事前の面会時ご希望を伺い作成後も確認している。 ・主治医とのケアプラン連絡体制あり ・会議に不参加の職員からは事前に聞き取りをしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・入居時、入居後約1ヶ月、後は約6ヵ月毎の見直しをし、計画作成後2ヵ月毎にモニタリングしている。 ・入退院後や特変時には随時、新たな計画を作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々のバイタルチェック・排便・尿、食事チェックを行っている。 ・個人の記録を行い、全職員が常に介護計画とともに閲覧できるようにし、見直しの意見が聞けるように努めている。	○	・記録の大事さをみんなに伝えていく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・併設病院、併設介護老人保健施設への転居やリハビリ室の活用等あり ・運動会、六月灯等各行事に参加し交流の場を広げ、楽しんで頂いている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・民生委員は、運営推進会議の会員として協力を頂いている。 ・警察署と連携体制あり ・消防署に協力を頂いての避難訓練を行っている。 ・中学生からの体験学習の要請あり、受け入れている。 ・行事の歌や踊りの慰問やお茶教室・音楽等のボランティアをお願いしました。社協にボランティア登録している。	○	・社協に登録してからボランティアの希望が入るので増やしていきたい ・運営推進会議で町内会の方の慰問やボランティアの必要性をお話しており、今年是实现したい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・ケアマネジャーより、新規の利用者様の紹介を頂いたり、他事業所への転居時に支援あり。	○	・他事業者やサービス等の情報を収集していく。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・情報交換やアドバイスを頂いている。運営推進会議にも参加参加を頂いている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族のご意向に添った主治医と関係作りや歯科、皮膚科、眼科等への通院も支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	・施設長が神経内科医であり、常時支援体制あり。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	・医療連携体制あり。週に1回以上の訪問あり、健康管理を行い、既往症の進行や新たな疾病の発症を防げるよう連携している。	○	・既往症の進行や新たな疾病の発症を未然に防げるように連携を強化し、生活を支援していく。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	・入院中の訪問や担当看護師等との情報交換をいつでもご家族からの相談に応じられるように努めている。 ・ご家族の意向、主治医の判断等相互の情報交換や連絡が、的確に行われるように連携している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・入居時の重要事項説明時に話し合い、時に応じて医師、看護師にも相談しながら話し合いを繰り返している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	・各関係機関主催の研修や事業所内での勉強会、サービス担当者会議を通して取り組んでいる。 ・主治医を始め医療連携チーム、併設病院等との協力体制での支援に取り組んでいる。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	・事前の情報交換に加え、情報提供書や事後の情報交換をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄介助、更衣等プライバシーを配慮したケアを心がけている。 ・会話の中でも周りの状況に配慮している。 ・記録物は他者の目に触れないように事務所に保管している。 ・2号館はトイレ入口にアコーディオンカーテンがあり、必要に応じて使用している。 	○ ・さらなるプライバシー保護の徹底に努める
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・一方的に提供をするのではなく一緒に考えて頂き、本人が納得されるように支援している。 ・お茶の時間、入浴のリラックスした時に本人の思いや希望、悩みを聞きだし、実現に向けた支援を行っている。 	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・食事・お茶の時間、入浴日は決めている。体調や気分がみんなでのお茶や食事を希望されないときは居室で食べられたり、時間をずらしたりしている。 ・外出希望時は職員がすぐ同行できるようにしている。 	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・ご家族の協力を得て衣類の補充をして頂き、好みの服装ができるよう支援している。 ・理容・美容は入居当時にご希望をお聞きして特になければ近隣的美容室を利用している。満足されているようです。 	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜の下ごしらえ、食器洗い、米研ぎ、片付け等を一緒にしながら好みの献立を聞いている。 	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・お酒、喫煙は禁止していないが現在は希望される方はいない。 ・入居時嫌いなものは聞き取りを行い工夫している。飲み物、おやつは楽しみにされており、喜ばれている。 	○ ・喫煙に関しては問い合わせもある。他入居様にも関わってくるのでいつでもどこでもというわけにはいかないが、希望に添えるように支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・排泄チェックを行い、一人ひとりの排泄パターンを大体把握している。 ・日中は布パンツ+尿パット使用にて時間のトイレの声掛け、誘導している夜間はおむつにてゆっくり休まれている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・基本的には曜日は決まっているが、いつでも入浴できる体制にはしている。 ・1対1での入浴介助なので、ゆっくりと楽しまれており、身の上話や歌が出たりしている。 ・浴室用イスや滑り止めマットを使用して安全に入浴して頂けるように努めている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・照明、室温等環境整備に留意している。眠れないときは話を聞いたり、ホットミルクをお出ししたり、添い寝をしたり個々に行っている。 ・皆さん夜はよく休まれている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・生活歴を踏まえながら、家事や手仕事等、掃除、買い物できる範囲で参加して頂いている。 ・趣味を生かし続けて頂いている。	○	・個々に取り組める組めるようにレクリエーション等を増やす。 ・気晴らし、気分転換の方法を考えていく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・支援している。お金の管理は職員がしているが、入居様が希望されれば一緒に買い物に出かけている。外出の時もお小遣いを持っていくようにしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・マンション型シティホームなため玄関を出ればすぐ外というわけにいかないので外出を多く取り組んでいる。散歩はもちろんゴミ捨て、リハビリ通院。週2回の車での買い物は、一人でもたくさんの方が外に出る機会ができればと取り組んでいます。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・年中行事の花見など外出を計画したり、演芸会におしゃれて出掛けたりしている。入居様も外出は楽しみのようです。 ・ご家族にも外出、外泊を進めている。	○	・個人の外出も取り組んでいく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・希望があれば本人に電話をかけてもらったり、手紙を書いてもらったりしている。年賀状は施設よりもたくさん届いていません。	○	・たくさんの方に取り組めるようにしたい。レクリエーションの一環ではがき等を作り、送りたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・ご家族や友人が来所の際は居室へ通しゆっくりして頂けるようにしている。 ・母の日や敬老会には「招待して一緒に過ごせるよう」に取り組んでいる。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・研修や勉強会で理解してもらっている。身体拘束や施設内への閉じ込め等はない。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・日中はドアを開放していることが多く、障子を閉めて中が直接見えないようにしている。自由に出入りできる状態にしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・居室に入室するとき、タンスを開けるとき等許可を得ている。 ・フロア内には常に1人は必ず職員がいるよう連携を取っている。席を外すときは声を掛け合っており、無断退室や転倒を防いでいる。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・薬品や洗剤等は目につかないように保管、管理している。使用時は特に注意を払っている。 ・はさみ、包丁は個々人の状態を把握し、職員と共同で作業している。始末は手の届かないところへ行っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・ケアプラン作成時、職員会議時検討し、全職員が危機意識を持ってケアしている。 ・避難訓練等は全職員が参加して行っている。 ・ヒヤリハットの徹底を行っている。	○	・転倒事故が無くならないため、より一層の危機感を持って処遇にする。 ・定期的に研修、勉強会を行う。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・事業所内外での研修や勉強会を行っている。 ・急変時のマニュアルを作成している。 急変時や事故発生時は医療連携チームや併設病院に即一報を入れて指示を仰いでいる。状況により受診か往診が可能	○	・事故・急変時を想定しての勉強会・訓練を定期的に行う
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・年2回、消防署の協力を得て避難訓練を行っている。	○	・地域の方も参加して頂けるような計画を立てて行いたい ・水害等の時は施設を非難場所に利用してほしい
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	・入居時に1対1の介護はできないためある程度の危険が伴う事の説明は行っている。御家族のご理解のもとに「今」を大切にされた対応策を検討し、支援している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・医療連携体制あり、毎日様子を報告したり、定期的に来所し、バイタルチェック等をしている。気づいた点は書き出しておき所見をもらっている。異常の早期発見に努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・内服薬管理表を作成して、周知に努めている。 ・内服薬が変更になったり、臨時薬が処方された場合は、申し送り ノートに書き全職員が周知し、細かい症状の変化等も記録し、主治医との連携に努めている。	○	・定期的な勉強会やケース会議を行い職員の資質を高める。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・理解し、排便チェックを行い、適切にコントロールしている。 ・毎日の食材に取り入れている。繊維質の食品や乳製品をよく使用している。 ・散歩や体操で体を動かしたり、腹部のマッサージを行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・自立、声掛け、一部、全介助等個人にに合わせて支援している。 ・提携している歯科医の定期往診あり、個人にあった口腔ケアを行っている。 ・週2回義歯洗浄剤を使用している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・栄養計画書を6カ月毎に作成し、医療連携の看護師、併設病院の管理栄養士に指導を受けている。 ・月1回体重測定の実施 ・食事量・水分量のチェックを行っている。 ・体重が超過気味の方にはご飯の盛りつけの工夫を行ったり、食事量が少ない方には高カロリージュースの提供を行っている。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	・法人の感染予防マニュアルあり、事業所独自の予防対策方法も入れてある。 ・ご家族の理解を得てインフルエンザの予防接種を受けて頂いている。	○ ・予防が第一と心掛け、常日頃の対応を実践していく
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・食中毒の予防のマニュアルを台所に掲示・手洗いの励行等啓発に取り組んでいる。 ・食器は乾燥機使用、まな板はハイター消毒を行っている。 ・生鮮食品の管理に注意を払い早めに使い切るようにしている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・道路に面したビルの側面に看板あり。 ・建物の玄関周りが建築上明るいイメージではない。花や観葉植物を置いている。 ・ホームが4・5・6階にあるため近隣の方と顔を合わす機会が少ないので散歩を多く取り組んでいる。	○ ・建物の入口を工夫したい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節感が出るような壁画の工夫や入居様の作品を展示したり親しみやすくしている。 ・テレビの音量は入居様に聞きながら調整している。 ・光がまぶしくないようにカーテンで工夫している。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・共有スペースのソファで気のあった方々が一緒にテレビを見たり、談笑されている。 ・2号館はソファが2つあり、仲の良い方々同士で座ったり、独りの空間を作るために使ったりしている。また、台所前にイスを持ってきて職員との会話を楽しんだりしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・入居時に自宅で使っていた寝具、家具等を持ち込んで頂けるよう説明している。 ・居室に机やラジカセを置きよく聴いたり、家族の写真を飾ったり工夫している。 ・鏡台や馴染みの小物を置いて過ごしやすい空間を作っている。 		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・台所、フローア、トイレ、浴室には換気扇があり、適宜使用している。 ・居室の掃除時、不在時等に窓の開放をしている。 ・温度調節は入居者様に伺いながら温度設定している。 		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・建物内はバリアフリーである。トイレ、風呂場、フローアには手すりを設置している。 ・トイレは特に分かりやすくしている。(入口付近に看板を付けて目印にしている) ・居室入口には名前を書いて分かりやすくしている。 		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・入居当初は特に職員がそばに寄り添い、混乱のない様に支援して行く。 ・傾聴、受容し、寄り添い共に生活を送りさげない支援を心掛ける。 		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・観葉植物の世話や水撒きを楽しんでいる。 ・高さを生かして景色や空を眺めたり、日光浴を楽しんでいる。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・屋上を利用して菜園を作りたいと思っている。 ・気候の良い時はベランダでお茶会を考えている。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・「ゆっくり やさしく おだやかに」の理念に添って「共に 楽しく 健やかに」職員一同寄り添う介護に努めています。
 ・24時間安心して暮らしていただけるよう協力病院(土橋病院)や介護老人保健施設(城西ナーシングホーム)の支援体制が確保 されています。
 ・鹿児島中央駅より徒歩5分と利便性に恵まれた場所に立地してしている。